

流行り謡の形式と言語構造

岡 益 巳

1. はじめに

本論では、「流行り謡」の言語構造上の特徴について、若干の言及を試みたい。ここでいう「流行り謡」とは、狭義の“民謡”，すなわち、「民間歌謡で、多くは時事や政治に関係があるもの」である。

柿崎[1974]は、「今では“民謡”と“民歌”は、ほとんど混同されているようである (p.281)」としている。ここで、両者の定義をしておきたい。広義の“民謡”には、狭義の“民歌”，すなわち、日本語の民謡に相当する田植え歌や茶摘み歌のような労働歌或いは祝い歌の類も含まれる。また、広義の“民謡”と広義の“民歌”は同一の概念を示す。

「流行り謡」はほとんどが“顺口溜”の形式をとっている。“顺口溜”とは、「民間ではやっている話し言葉による韻文の一種。文句の長さは一様ではないが、非常に語呂がよいのが特徴（小学館『中日辞典』）」である。流行り謡の中には、俚諺、格言、替え歌、標語、諧謔詩、対聯、“歇后语”などの形式をとるものもある。“歇后语”は、「二つの部分からなる成句で、前のたとえの部分だけ言って後の部分を自然と推察させる一種のしゃれ言葉（前出『中日辞典』）」である。“顺口溜”が非常に口調がよい理由としては、押韻、対句、掛け言葉、比喩、繰り返しなどの修辭的技法が用いられている点が挙げられる。しかしながら、押韻一つを取ってみても、それは「詩」の場合とは意味合いが異なる。例えば、五言律詩であれば、偶数句末は同韻のそれぞれ異なった字でなければならないが、“顺口溜”の場合、往々にして全ての句末に同一の字を使用することが多い。この方法は余りにも単純で、文学的な価値を感じさせない。ただ、明快で覚えやすく、繰り返しのインパクトも生じる。もちろん、同じ言葉が繰り返されることから、“顺口溜”には近体詩に要求される平仄という概念も欠けている。

流行り謡の、こうした言語構造的特質について、必要に応じて近体詩との比較により、述べてみたい。なお、情報検索した限りでは、流行り謡の言語構造に関する先行研究例はないようである。

2. 流行り謡の諸形式

流行り謡の大半は“顺口溜”の形式をとる。岡[1995ab]で取り上げた流行り謡127篇の場合、そのうちの122篇が“顺口溜”である。“顺口溜”の特質については次章に譲り、まず“顺口溜”以外の形式を取る場合について述べる。

2. 1 俚諺

俚諺の形式をとる流行り謡は余り多くない。例1では、元の俚諺をベースとして、一字入れ換えている。

【例1】有钱能使官推磨。 [A-93-11]

役所の沙汰も金次第。

俚諺：有钱能使鬼推磨。

地獄の沙汰も金次第。

次の例では、俚諺の後ろにもう一句つけ加えて、うまい宣伝文句を構成している。

【例2】车到山前必有路，

有路必有丰田车。 [A-92-6]

車が山に至れば必ずや道がある，

道があれば必ずやトヨタの車がある。

俚諺：车到山前必有路，

窮すれば通ず。

次の例は、頭脳労働者の収入よりも肉体労働者の収入のほうが多い現実を揶揄している。

【例3】三个诸葛亮，不如一个臭皮匠。 [M-94]

三人の諸葛亮よりも一人の靴職人のほうがまし。

俚諺：三个臭皮匠，赛过诸葛亮。

三人寄れば文殊の智恵。

2. 2 格言

この形式をとる流行り謡も少ない。例1は、元の格言を口語調に改めただけのものである。

- 【例1】钱不是万能的，但没有钱是万万不能的。 [B-93-9]
 お金は万能じゃないけれど、お金がなければ何一つできない。
 格言：金钱未必万能，没钱却万万不能。
 カネは万能ではないが、カネがなければ万事休す。

次の例では、鄧小平の発言として有名な、「白猫黒猫論」の「猫」を「馬」に変え、後半をより直接的な表現に改めている。

- 【例2】不管白马黑马，能赢钱就是好马。 [A-93-11]
 白い馬だろうと黒い馬だろうと、金儲けができりゃ良い馬だ。
 格言：不论白猫、黑猫，捉到老鼠的就是好猫。
 白猫であろうと黒猫であろうと、ネズミを捉えることのできる
 のが良い猫だ。

2. 3 替え歌

言うまでもなく、替え歌の前提条件は、元の歌が一般に広く知られていることである。まず、毛沢東賛歌である『東方は紅い』の替え歌を取り上げてみる。

- 【例1】西方紅，月亮升，
 中国出了个邓平，
 他为特权谋幸福，呼儿嗨哟，
 他叫咱们各儿顾各儿。 [B-89-2]
 西の空が紅くなり，月が昇り，
 中国に鄧小平が誕生した。
 彼は特権階級のために幸せ謀る，
 自分のことは自分で面倒見ると言う。

元歌：东方紅，紅太陽，
 中国出了个毛泽东，
 他为人们谋幸福，呼儿嗨哟，
 他是人民大救星。
 東の空が紅くなり，太陽が昇り，
 中国に毛沢東が誕生した。

彼は人民の幸せ謀る、
彼は人民の救いの星だ。

『東方は紅い』の替え歌は、筆者が収集した限りではあと二種類のヴァージョンがあり、相当広範に歌われたものと推察される。いずれも、毛沢東をダシにして、鄧小平をこきおろした内容となっている。

次に、『社会主義は素晴らしい』の替え歌を紹介しておこう。

【例2】社会主义好，社会主义好，
社会主义国家人民工资少。
反动派没打倒，
帝国主义夹着皮包回来了。 [B-89-2]
社会主義は素晴らしい，社会主義は素晴らしい，
社会主義国家の人民は給料が少ない。
反動派は打倒されないで，
帝国主義がカバン抱えて戻って来た。

元歌：社会主义好，社会主义好，
社会主义国家人民地位高。
反动派被打倒，
帝国主义夹着尾巴逃跑了。
社会主義は素晴らしい，社会主義は素晴らしい，
社会主義国家の人民は地位が高い。
反動派は打倒され，
帝国主義はしっぽを巻いて逃げ去った。

『共産党がなかったら新中国はない』の替え歌は、次の通り。

【例3】打倒共产党才能救中国，打倒共产党才能救中国。
共产党坏事做得多，共产党害民误中国。
夺取政权四十年，阶级斗争天天有。
他不管人民生活苦，他不管国家太落后。
他剥夺了民主自由，官僚特权大享受。
打倒共产党才能救中国，推倒四项原则才能救中国。 [B-89-2]
共産党を倒さなきゃ中国は救われぬ，

共産党を倒さなきゃ中国は救われぬ。
共産党は悪事が多い，共産党は民を害し国を誤らす。
政權奪って四十年，毎日毎日階級闘争。
人民の生活が苦しくても構わない，国家の遅れも構わない。
民主と自由を奪い去り，官僚の特権を大いに享受。

共産党を倒さなきや中国は救われぬ。

四つの基本原則を葬らなきや中国は救われぬ。

元歌：没有共产党就没有新中国，没有共产党久没有新中国，

共产党他辛劳为民族，共产党他一心救中国。

他指给了人民解放的道路，他领导中国走向光明，

他坚持抗战八年多，他改善了人民的生活，

他建立敌后根据地，他实行民主好处多。

没有共产党就没有新中国，没有共产党就没有新中国。

共産党がなかったら新中国はない，

共産党がなかったら新中国はない，

共産党は民族のために骨を折る，共産党は一途に救う中国を。

人民に解放の道を指し示し，中国を導き光明へと向かう，

頑張り通して八年余り戦い，人民の生活を改善した，

敵の後方に根拠地を築き，

民主主義実行し良いところがいっぱい。

共産党がなかったら新中国はない，

共産党がなかったら新中国はない。

2. 4 標語

スローガンは形式上“顺口溜”と区別がつかないことが多く、採集時に特にスローガンと明記してない場合は見逃してしまう。一人っ子政策推進のためのスローガンを示しておこう。

【例1】一胎保，二胎刮，三胎扎。 [A-92-2]

一人目は大切に，二人目は掻き出し，三人目は結紮する。

【例2】保好老大，不要老二，消灭小三。 [A-92-2]

一人目は大切だ，二人目は要らない，三人目は葬りされ。

【例3】上吊不夺绳，喝药不夺瓶，

一定要把计划生育搞上去。 [A-92-2]

首を吊る奴の縄を奪うな，服毒自殺をする奴の瓶を奪うな，

必ずや計画出産を遂行しよう。

例1と例2は，短い上に数字が入っており，極めて口調がよい。例3は計画外の妊娠をして自殺しようとする女性がいても止めるな，という恐ろしい内容である。全く「人権」を無視したこれらのスローガンから，一人っ子政策を推進する役人の官僚主義的態度と，それに対する民衆の怒りとが

読み取れる。

2. 5 諧謔詩

諧謔詩（“打油詩”）は、何らかの元の詩があって、それをもじって造られる場合と、下敷きとなる詩がなくて“顺口溜”よりもやや詩の格調を取り入れて造られる場合とがある。前者の場合は、元の詩の影響もあって、口語調というわけにはいかない。李白の「蜀道難」を模した「昇級審査」（“評职称”）と題する諧謔詩がある。これは、大学や研究所に勤務するインテリの昇進・昇格が非常に困難である現実を歌い込んでいる。

【例1】噫吁嚱，危乎高哉，

評职称难，难于上青天！

能否评得上，吾侪何茫然。

已有四五十岁，不与副研相钩连！

著作多本文无数，可以横踞学术巅；

卅年教龄鬓发秃，副教授职称仍尚无缘。

上有层层克扣之指标，下有虎视眈眈之长官；

累死之人尚不得过，我等更是愁攀援！

学路何盘盘，前进一步几多关！

痛定思痛沉思量，以手抚膺坐长叹！

从官之路红彤彤，从商之路金灿灿，

但见从学黑洞洞，全家老少跟着惨！

又闻教师唤：谁买茶叶蛋？

评职称难，难于上青天，使人听此泪满面！

发明创造顶何用，著书立说等枉然；

国奖不及一处长，脑体倒挂更可怜！

其难也如此，嗟尔读书之人，胡为乎读哉！

更悲白发哭黑发，中华精英，纷赴黄泉，

巨星频频失，化为尘与烟！

吃的是草，挤出是血，守穷忘我，犹殷苦干。

万般皆上品，唯有读书低。

评职称难，难于上青天，仰首上望长空嗟！ [E-89]

ああ、危ういかな、高いかな、

昇進は難しい、青天に上るよりも難しい！

昇進できるか否か、我らは全くわからない。

すでに四五十となるが、副研究員もにも引っかからない！
 著作は多数で論文は無数、学問の頂上を極めたといえる；
 三十年の教歴で頭は禿げたが、副教授の地位には未だ無縁。
 上は各々割当枠の上前をはね、下は虎視眈々と上の顔色窺う；
 骨身削っても関門を越せぬ、我らにはその上ずがる人もない！
 学者の道はなぜか曲がりくねって、一步進むにも幾多の関所！
 反省したり考え込んだり、胸をさすっては長いため息をつく！
 官僚の道は紅く染まり、商売の道は金色に輝く、
 ただ学者の道は真っ黒で、一家全員悲惨の道連れ！
 また聞こえてくる教師の物売りの声も、ゆで卵は如何ですか？
 昇進は難しい、青天に上るより難しい、聞いた人は顔中涙！
 発明創造も役には立たぬ、本を著し説を立てても無駄なこと；
 国の奨励金は処長もに及ばぬ、労働者以下もとはかわいそう！
 難儀かくの如し、君達知識人よ、どうして学問をやるのか！
 更に悲しきは白髪が黒髪を泣くも、中華の英才、続々死す、
 巨星しきりに落ち、塵や煙と化す！
 草を食らい、血を流し、貧を守り私心を捨て、なおも頑張る。
 みなみな全て高級だが、ただ学問だけが低級だ。

昇進は難しい、青天に上るより難しい、上を向いて嘆息する！

李白の「蜀道難」については、『唐詩三百首』あたりを参照されたい。

唐詩などを下敷きにした諧謔詩は表現も硬く、気軽に口をついて出ると
 いうような代物ではない。こうした下敷きのないものは口語調で、“顺口
 溜”と紛らわしい。

【例2】柑桔紅香時，会客八方来。

城里交通挤，车站满是牌。

宾馆愁床少，到处忙接待。

几多叫苦人，长沙一场灾！ [E-89]

みかんが色づくころ、会議の参加者が八方から来る。

町の交通は混雑し、駅にはブラカードもが満ち溢れる。

ホテルはベッドが少ないのを愁え、どこも接待で忙しい。

なんともはや大変で、長沙は災難に見舞われる！

この詩の偶数句末は、来lái 牌pái 待dài 灾zāi と同音である。

【例3】午夜冷雨又凄风，

肚饿衫薄守寒窗，

羨煞人间个体户，

学得微观早脱穷。 [E-89]
 深夜冷たい雨が降りすさまじい風が吹く、
 すきっ腹かかえ貧相な身なりで苦学する、
 俗世の自営業者が死ぬほど羨ましい、
 ミクロ経済を習得したら早く貧乏から脱出したい。

2. 5 対聯

対聯の形式をとる流行り謡も多くはない。この形式は、左右にくる部分が比較的長く、最後の句が短い横軸となるため、一目瞭然である。

【例1】说你行你就行，不行也行；
 说你不行你就不行，行也不行；
 不服不行 [A-93-10]
 よろしいと言われりゃそれでよい、たとえダメでも大丈夫だ；
 ダメと言われりゃダメなのだ、たとえ正しくてもダメなのだ；
 服従しなけりゃダメなのだ。

【例2】你讲话，我讲话，大家都讲话；
 你开会，我开会，大家开会；
 无人落实。 [M-94]
 あんたが演説し、私が演説し、みんなが演説する；
 あんたが会議を主催し、わたしが主催し、みんなが主催する；
 誰もそれを実行しない。

【例3】紧开会、密开会、天天开会，
 你讲话、我讲话、人人讲话。
 谁去落实？ [A-92-8]
 ひっきりなしに会議を開く、びっちり開く、毎日開く、
 あんたが演説し、私が演説し、みんなが演説する。
 誰がそれを実行するのか？

【例4】该死的不死，不该死的死；
 该死的没死，不该死的死了，
 死错人了。 [F-90]
 死ぬべき人物は死なず、死ぬべきでない人物が死ぬ；
 死ぬべき人物は生きており、死ぬべきでない人物が死んだ、
 間違っって死んでしまった。

これは、胡耀邦の死を悼んだ謡である。「死ぬべき人物」は言うまでもな

く、鄧小平を指している。

2. 6 “歇后语”

“歇后语”は一種のしゃれ言葉であり、日本で言えばさしずめ「○○とかけて何と解く? ---- ○○と解く」といった類のものである。その言語形式は極めて特徴的である。

【例1】官商是屁股后面绑钢筋

---- 根子硬。 [D-89]

お役人の商売は尻の後ろに鉄筋がくくりつけてある

---- 根が硬くて強い。

【例2】电视台的广告 ---- 骗人。 [A-92-4]

テレビのコマーシャル ---- インチキ。

【例3】物美，廉价，不耐用 ---- 知识分子。 [D-89]

モノが良く、値段が安い、長持ちしない ---- インテリ。

例3の言わんとするところは、「どんな劣悪な条件の下でも頑張るが、貧しい生活を余儀なくされており、その結果栄養不良で長生きできない。それは誰か。 ---- インテリだ」ということ。

3. “顺口溜”の言語構造の特徴

3. 1 字数と句数からみた“顺口溜”の特徴

“顺口溜”の長さは一様ではない。一句の長さも様々であり、一篇の句数も様々である。岡[1995ab]で取り上げた127篇の流行り謡のうち、“顺口溜”以外の形式をとる5篇を除く122篇で見ると、次のような点が明らかになる。

一篇を構成する各句の長さが一定であるものが、一句から成る6篇を除く116篇中の72篇62.1%を占める。この72篇のうちで、一句の字数七字のものが28篇で最も多く、次いで五字のものが23篇と多い。

もう少し詳細にみると、五字×四句が最も多く12篇、次いで七字×二句及び七字×四句が共に9篇、七字×三句が5篇である。

また、一篇の各句の字数の異なる44篇についてみると、一句の字数が七字、三字が多く、四字、五字、六字、八字、九字の場合も比較的多い。すなわち、三字、七字のいずれか或いはその両方で構成される謡が10篇存在

する。

一篇を構成する句の数は様々であり、一句から成るものから三十句のものまでである。122篇中、四句から成るものが42篇 34.4%と最も多く、次いで三句の25篇20.5%、二句の23篇18.9%であり、二句～四句のものが全体の73.8%を占める。

ここで、典型的な“顺口溜”の構造である五字×四句の例を挙げておこう。

【例1】发了靠海的，富了摆摊的；

穷了坐班的，骗了靠边的。 [A-88-6]

海辺の住民は豊かになった，露店をやる奴は金持ちになった；
給料取りは貧乏になった，退職した者は騙された。

【例2】盗贼暗中偷，干部明里拿；

盗贼可以抓，干部不能骂。 [A-93-10]

盗賊はこっそり盗むが，幹部はおおっぴらに取る；
盗賊は捕まえられるが，幹部は罵ることもできない。

3. 2 “顺口溜”の修辞上の特徴

“顺口溜”は、たいていの場合、次に示すような修辞上の特徴を備えている。すなわち、①押韻、②対句、③掛け言葉、④比喩、⑤繰り返し、⑥対比（同一句内での、或いは句をまたがっての）、⑦数字表現、⑧語呂合わせ、などである。

“顺口溜”の押韻は近体詩で言うところの、厳密な意味での「押韻」とは異なる。“顺口溜”の場合、同韻であるかどうかにはこだわらず、同音の字或いはあっさりと同一の字を用い、口調を整えている。同音の字或いは同一の字は、句末に限らず、句頭や句中でも用いられるのが特徴的である。すなわち、同一文字或いは同一語の繰り返しも多く、修辞的には単純な構造であるが、謡そのものは非常にインパクトのあるものに仕上がっている。

対句も、平仄を踏まえた近体詩の対句とは異なり、対比的な内容の句を並べるといったレベルのものであるが、非常に効果的な仕上がりとなっているものが多い。数字を用いた“顺口溜”は口調がよく、数え歌風に一～十と増えていく場合、万、十万、百万と桁が増える場合、同じ数字を繰り返す場合などがある。

こうしたいくつかの特徴を合わせ持つ作品が大半である。例を挙げて、

以上の点を確認してみよう。

- 【例1】見上司眯眼，见下级冷眼。
 见赞扬开眼，见批评横眼。
 见宴请定眼，见困难转眼。
 见名利红眼，见群众翻眼。
 见礼品花眼，见危险傻眼。 [E-89]

上司に会えば目を細め、部下に会えば冷たい目でみる。
 賞賛されれば目を丸くして、批判されれば目を怒らせる。
 宴会の招待状見れば目が止まり、困難に出会えば目を外らす。
 名利を目にすりゃ羨ましくて、庶民を見れば睨みつける。
 贈り物見れば目がくらみ、危険に出くわせばうろたえる。

この謡は、各々の句を全て“見～眼”の繰り返しでまとめている。また、奇数句と偶数句は対比的な内容となっており、対句表現と言える。特徴：①②⑤

- 【例2】你集我集他集农民急，
 你筹我筹他筹农民愁。 [A-93-10]

あんたが集め、俺が集め、奴が集め、農民は気が気じゃない、
 あんたが取り、俺が取り、奴が取り、農民は嘆く。

この謡は、繰り返しによって効果をあげている。“你”“我”“他”の全てが政府の各部門の役人であり、さまざまな名目をつけて農民から金を搾り取っている様子を謡っている。“集”ji と“急”ji，“筹”chóu と“愁”chōu は同音である。特徴：①⑤

- 【例3】干多干少一个样，
 干好干坏一个样。 [D-89]

たくさん働いてもちょっと働いても同じこと、
 ちゃんとやろうが出鱈目にやろうが同じこと。

この謡も、“干”と“一个样”の繰り返し，“多”と“少”，“好”と“坏”の対比により、歯切れのいいリズムとなっている。特徴：①⑤⑥

- 【例4】早上包公，中午关公，晚上济公。 [A-93-10]

朝は包公，昼は関羽，夜は济公。

この謡は、「朝は包公のようにまともな顔つきだが、昼には酒が入って関羽のように真っ赤な顔になり、夜は济公のようにへべれけに酔っぱらっている。」という意味。朝、昼、晩が対比的である。三人の名前が比喩的に用いられており、しかも各句末が“公”で統一されている。この謡は短い非常によくできている。特徴：①④⑥

【例5】四只金钱豹，十三顶大盖帽，
都来吃一顶破草帽。 [A-93-10]

四頭の豹，十三個の制帽が、
そろって破れた麦わら帽子一個を食いに来る。

“四只金钱豹”は工商管理局、税務署、銀行、財政部門を指し，“十三顶大盖帽”は公安、検察、裁判所などの法の執行部門全てを指す。“破草帽”は貧しい農民を指す。したがって、この謡は政府の各部門の役人たちが寄ってたかって貧しい農民を食い物にしている様子を風刺している。各句末は“豹”bào，“帽”mào と同音である。特徴：①④⑦

【例6】小贫不去，小康不来。 [A-89-6]

貧乏が去らねば、まずまずの生活はやって来ない。

“小贫”xiǎo pínは“小平”Xiǎo píng との掛け言葉である。したがって、これは、「鄧小平が死ななければ、まずまずの生活はやって来ない。」という物騒な内容の謡である。“去”は「死ぬ」という意味もある。句末は“去”と“来”で対比構造をとっている。特徴：②③⑥

【例7】脑内科不如脑外科。 [A-88-6]

医者より散髪屋のほうがまし。

“脳外科”は比喩的に用いられており、ここでは「脳外科」ではなく、「散髪屋」の意味である。“脳内科”という言葉は造語であり、「医者」という意味である。医者収入より散髪屋収入のほうがよいことを風刺している。“脳内科”と“脳外科”が対比的に用いられ、口調もよく、効果的に仕上がっている。特徴：④⑥

【例8】干部都是酒精考验，
喝起酒来两三斤不醉，
吃起菜来四五盘不累，
打起牌来六七天不睡，
跳起舞来样样都会，
干起活来不知是错是对。 [B-94-3]

幹部はみなアルコールで選抜、
酒を飲んでも二三斤じゃ酔わぬ、
料理を食べば四五皿じゃ疲れず、
マージャン打てば六七日は眠らぬ、
ダンスとなるとなんでも踊れるが、
仕事となると是も非も分からぬ。

“酒精”jiǔ jīng は“久经”jiǔ jīng との掛け言葉である。すなわち、

幹部は元々“久经考验”（長期に渡る試練を経て選抜される）はずであるが、宴会で酒を飲んでばかりいる連中が出世する現実を皮肉っている。

「両（＝二）～七」の数字や“～起～来”が繰り返し用いられ、リズム感のある謡となっている。特徴：①③⑤⑦

【例9】十亿人民九亿倒，还有一亿正在想。 [M-94]

十億の人民の九億がブローカー，その上一億は思案中。

この、「十億の人民の九億が～」という謡はかなり流行ったようで、十数種類のヴァージョンがある。数字を巧みに取り入れ、口調のよい仕上がりとなっている。十四字の短い謡であるが、“億”が三回用いられている。特徴：⑤⑦

【例10】两菜一汤生意跑光，

四菜一汤平平常常，

六菜一汤买卖兴旺，

八菜一汤独霸一方。 [M-94]

料理二品にスープ一品 商談が吹っ飛ぶ，

料理四品にスープ一品 ごくごく平凡，

料理六品にスープ一品 商売が繁盛，

料理八品にスープ一品 取り引きを独占。

この謡は、料理には「両（＝二）、四、六、八」という数字を、スープには全て「一」という数字を巧みに使っている。“菜”と“一汤”が繰り返されて、非常に口調がいい。また、句末は“光” guāng , “常” cháng , “旺” wàng , “方” fāng となっている。特徴：①⑤⑥⑦

【例11】一等人是公仆，全家老少享清福；

二等人搞承包，吃喝嫖赌全报销；

三等人搞租赁，坐在家也拿利润；

四等人大壳帽，吃完原告吃被告；

五等人手术刀，拉开肚皮要红包；

六等人当演员，喊两嗓子也是钱；

七等人干个体，骗完老张骗老李；

八等人搞宣传，隔三差五解解馋；

九等人当教员，山珍海味认不全；

十等人老百姓，加班加点学雷锋。 [B-94-8]

一番手はお役人，一家全員幸せ満喫；

二番手は請負業，飲む打つ買うは経費で落とす；

三番手は家主さん，座ったままで利益が上がる；

四番手は裁判官，原告のあとは被告を食い物に；
 五番手は外科の医者，腹を切り裂き祝儀をねだる；
 六番手は俳優で，ちよいと声出しゃ金になる；
 七番手は個人営業，誰彼かまわずペテンにかける；
 八番手は新聞記者，三日とあけず接待にありつく；
 九番手は教員で，山海の珍味とは無縁の存在；
 十番手は一般大衆，残業しては雷鋒に学ぶ。

これは、数え歌のスタイルをとっており、職業や地位の違いによる不平等感、不公平感を巧みに謡い込んでいる。類似のヴァージョンも多い。同じ行の奇数句末と偶数句末はほぼ韻を踏んでいる。特徴：①②⑤⑦

【例12】外国有个‘加拿大’，
 我国上面是‘拿大家’，
 下面干部是‘大家拿’。 [E-89]
 外国には「カナダ」がある，
 我が国のトップは「みんなから取る」，
 下の幹部連中は「みんなで取る」。

“加” jiā と“家” jiā は同音であり，これは“加拿大”（カナダ）という語を用いた語呂合わせである。特徴：⑥⑧

最後に、変わり種として、英語の単語を入れた“顺口溜”を紹介しておこう。

【例13】人生本应 Happy, 何必整日 Study,
 考试只求 Pass, 拿到文凭 Bye-bye! [E-89]
 人生は本来楽しくなくちゃ，なんで日長勉強せにゃならぬ，
 試験は合格さえすればよく，卒業証書手にすりゃおさらばだ！

4. おわりに

流行り謡の構造を、言語学的、文学的にみてもみると、多くの場合、押韻、対句、掛け言葉、比喩などの修辭的手法を巧みに用いていることがわかる。しかし、流行り謡はあくまで作者不詳の、民衆の手による民衆の謡であって、唐詩のごとき高い芸術性を具備しているわけではない。だが、他方では、社会の実状を的確に反映し描き出しているという意味において、流行り謡の民俗学的意義は非常に大きい。

換言すれば、すぐれた詩は一首のみ取り上げても高い芸術性と文学的価値

値を有するが、たとえ同時代の詩を何百首収集したところで、それらの詩を通じてその時代の社会像を読みとることはできない。これに対して、流行り謡は一篇のみではさほど価値のないものであるが、同時代の謡を数百篇収集すれば、自ずとそれらの謡が生み出された時代の社会像が浮かび上がってくる。

これまで繰り返し述べてきたように、様々な修辞上の技巧が用いられているとは言え、それは決して高度なものではなく、むしろ同一文字或いは同一語の繰り返しといった、ごく単純な技巧である場合が多い。しかし、その単純さ故に、非常に口調のよい、インパクトのある仕上がりを示している。

流行り謡のこうした特性を考慮した場合、謡を一つ一つ取り上げて、その形式や言語構造を分析することの意義が疑問に感じられるのは、致し方のないことである。本論では、敢えてその形式と言語構造について論じてきたが、流行り謡を整理し、若干の分析を加えることによって、その形式的、構造的特質を再確認することができたのは、小さいながらも収穫であった。

【注】

- 1) “副研”（副研究員）は、大学で言えば「助教授」に相当する職稱。
- 2) 登校時、休憩時間、下校時などに、校門付近や廊下や教室内で、教師が学生・生徒を相手に物売りをして生活費を稼ぐ光景は珍しくない。
- 3) 中小都市の「処長」はほぼ「県長」レベルの地位である。
- 4) “脳体倒挂”は、頭脳労働者の収入より肉体労働者の収入のほうが多いことを指す。
- 5) “白发哭黒髪”（白髪の人が黒髪の人を悼んで泣く）は、知識人は給料が安く、栄養不良などが原因で若死にする者が多く、それらの者を悼んで泣くという意味。
- 6) 宿泊所まで案内するため、日本であればさしずめ「〇〇会議様」とでも書かれたプラカードを両手に掲げている様子。

【付注】流行り謡の出所は各々の謡の末尾に略号で示した。引用文献の一連番号と対照されたい。

[A-88-6] --- (13) [A-92-2] --- (1) [A-92-4] --- (15)

[A-92-6] --- (19) [A-92-8] --- (16) [A-93-10] -- (17)

[A-93-11]--(18) [B-89-2]---(7) [B-93-9]---(8)
 [B-94-3]---(14) [B-94-8]---(6) [D-89]----- (20)
 [E-89]----- (2) [F-90]----- (5) [M-94]----- (12)

【引用文献】

- (1) 陳小川 [1992] 「殺氣騰騰的標語」 『九十年代』 1992年2月号, 98.
- (2) 甘棠 [1989] 『中國大陸的順口溜 (續集) 』 (中國大陸叢書36) 中國大陸問題研究所
- (3) 蘆塘退士 (編) 目加田誠 (訳注) [1973] 『唐詩三百首・1』 平凡社
- (4) 柿崎進 [1974] 『中国の民歌』 現代企画室
- (5) 串田久治 [1990] 『天安門落書』 講談社
- (6) 陸農 [1994] 「農村不穩狀況惡化」 『争鳴』 1994年8月号, 28-29.
- (7) 羅冰 [1989] 「中南海向左大傾斜」 『争鳴』 1989年2月号, 6-8.
- (8) 寧一 [1993] 「大陸新的一元化 --- 金錢」 『争鳴』 1993年9月号, 33-35.
- (9) 岡益巳 [1995a] 「流行り謡にみる現代中国社会の歪み (I)」 『岡山大学経済学会雑誌』 第26卷第3・4合併号, 151-170.
- (10) ----- [1995b] 「流行り謡にみる現代中国社会の歪み (II)」 『岡山大学経済学会雑誌』 第27卷第1号, 53-82.
- (11) 商務印書館・小学館 [1992] 『中日辞典』 小学館
- (12) 樹建・左愚 [1994] 『当代順口溜与社会热点扫描』 中国档案出版社
- (13) 童顏怡 [1988] 「北京：無尽的憂慮」 『九十年代』 1988年6月号, 35-37.
- (14) 王萌 [1994] 「從大陸順口溜說起」 『争鳴』 1994年3月号, 54-55.
- (15) 汪希祐 [1992a] 「北京档案」 『九十年代』 1992年4月号, 66-67.
- (16) ----- [1992b] 「北京档案」 『九十年代』 1992年8月号, 74-75.
- (17) 楊知著 [1993a] 「烏龜王八下臺去, 毒蛇猛獸上臺來 --- 大陸民謠對政治生活的諷喻」 『九十年代』 1993年10月号, 34-37.
- (18) ----- [1993b] 「毛澤東南巡搞文革, 鄧小平南巡搞搶劫 --- 大陸民謠對政治生活的諷喻」 『九十年代』 1993年11月号, 21-23.
- (19) 扎西多 [1992] 「車到山前必有路, 有路必有豐田車」 『九十年代』 1992年6月号, 14-15.
- (20) 趙金銘 [1989] 「中国当代俗语所展现的社会文化意义」 『大阪外国語大学論集』 第1号, 85-93.